



## キャッサバの主な病害虫リスト

主な病気	写真	原因と症状	対策
<b>モザイク病</b> <b>(ICMD &amp; SLCMD:</b> <b>Indian / Sri Lankan</b> <b>Cassava Mosaic</b> <b>Disease)</b>	 ©GCP21	感染株の使用ならびにコナジラミが媒介するウイルスによる病害。葉が黄色の斑点に覆われ奇形を起し枯死することもある。インド亜大陸では ICMD と SLCMD が発生し東南アジアではカンボジアで初めて SLCMD が報告される。アフリカには同属異種のウイルスが複数発生している。	①もし抵抗性品種が確立できれば抵抗性品種を植える、②罹病株は除去する、③少なくとも外観健全株から得た栄養繁殖体(カッティング)を使う、④殺虫剤によるコナジラミの防除あるいはコナジラミ数が少ないかほとんどいない標高の高い圃場を選ぶ
<b>てんぐ巣病</b> <b>(CWBD: Cassava</b> <b>Witches' Broom</b> <b>Disease)</b>	 (左が感染株) ©Dr. Trinh Xuan Hoat, PPRI	ファイトプラズマが原因と考えられる病害(その場合、昆虫が媒介するとされるが媒介昆虫は未確認)。その他の病原又は生理的原因で生じる可能性もあり要注意。短い葉柄の小葉が異常密生し奇形を起し、高い木の上に葉が出来た様な病徴を示す。でん粉含有量を大幅に減らす。「魔女の帚」に似ているため英語ではこの名で、日本語ではてんぐの巣と呼ばれる。	①もし抵抗性品種が確立されれば、抵抗性品種を利用する、②非感染株を選ぶ、③感染株を発見したら直ちに除き焼却処分
<b>Cassava Brown</b> <b>Streak Disease</b> <b>(CBSD)</b> <b>(和名なし)</b>	 ©CGIAR	アジアでの発生は確認されていないが、アフリカで CMD と同様大きく問題になっているウイルス病。CBSD は葉だけでなく塊茎に茶色い壊死症状を引き起こし、感受性品種の場合、70 %程度塊茎の重さが減る。ウイルスは塊茎伝搬もしくはコナジラミにより伝搬される。	①抵抗性品種の利用、②罹病株の除去、③感染が確認されている栄養繁殖体(カッティング)を使わない
<b>キャッサバ白葉枯病</b> <b>(CBB: Cassava</b> <b>Bacterial Blight)</b>	 ©A.A.Seif, icipe	細菌病。感染株から得た栄養繁殖体(カッティング)を栽培したり、汚染圃場で利用したりすることで発生する。雨の飛沫や人間や動物・機械の移動で周囲に感染する、雨季に被害が集中する	①抵抗性品種が確立できればそれを植える、②非感染株を選ぶ、③雨季の終わりに植える、④農機具などをよく消毒する、⑤カリウムの投与、⑥感染株は直ちに除き焼却処分、⑦飛沫感染を防ぐため他の作物を間作する、⑧連作を避ける



## キャッサバの主な病害虫リスト

主な病気	写真	原因と症状	対策
<b>キャッサバ根腐れ</b> <b>(Cassava Root Rot)</b>	 ©flickr	<p>根が腐敗する病気。水はけのよくない土地に被害が集中。病菌は糸状菌であるものが多いが、病徴だけからの判断は避けるのが望ましい。</p>	<p>①もし確実な抵抗性品種があればこれを利用する、②非感染株を選ぶ、③圃場の水はけをよくする、④粘土質の場合、畝の上部に植える、⑤感染株を発見したら直ちに除き焼却処分、⑥発生歴のある圃場での栽培を避ける</p>

主な害虫	写真	特徴	対策
<b>コナジラミ類</b> <b>(Whiteflies)</b> <i>Bemisia tabaci</i> , <i>Aleurodicus dispersus</i>	 ©Ozone Biotech	<p>①自らの吸汁で植物を弱体化、黄化、壊死させる、②分泌する糖分に富んだ排泄物が葉の表面にすすかび病を発生させ植物の光合成能力を低下させる、③キャッサバ・モザイク・ウイルス(キャッサバ・モザイク病の病原)などの植物病原を媒介し、キャッサバの場合、最大 82%の収量減を起こす</p>	<p>①抵抗性品種を栽培、②ササゲ(cowpea)との間作、③キャッサバ植物体が全く圃場に存在しない断絶期の設定、④ネオニコチノイド系殺虫剤(チアメトキサムなど)の施用、⑤天敵昆虫・天敵微生物の利用</p>
<b>キャッサバ・コナカイガラムシ</b> <b>(Cassava Mealybugs)</b> <i>Phenacoccus manihoti</i>	 ©TTDI	<p>①直接吸汁で葉の黄化と奇形化、落葉、芽の枯死をもたらす、②糖分に富んだ排泄物がすすかび病を発生させ植物の光合成能力を低下させる。タイでは発生が確認された最初の年にキャッサバの生産性を最大 40%減少させたと報告されている</p>	<p>天敵である寄生蜂(下写真 <i>Anagyrus lopezi</i>)の放飼が最善の策と言われる</p>  ©TTDI
<b>ハダニ類</b> <b>(Green Mite and Red Mite) <i>Mononychellus mcgregori</i> 及びその他複数種のハダニ科のハダニ <i>Tetranychidae</i> spp.</b>	 ©fightinsect.ru	<p>葉を黄化・枯死させる。インドネシアではハダニ類の加害により最大で 50%のキャッサバ収量減が報告されている。被害は乾季に集中し雨季には少ない</p>	<p>天敵となる別の捕食性ダニ類(カブリダニ類)の導入、土着天敵(クロヒメ Tentou 類・その他)の維持・活用</p>